

講演会

計算社会科学・ビッグデータ解析に関して、以下の講演会を予定しています。
学内・学外どなたでも興味ある方はご参加ください。講演者の川畑先生はビッグデータ解析でかなり実績のある方です。

5月14日（月）16：30から 23 番講義室

川畑泰子（群馬大学社会情報学部：卓越研究員、鳥取大学博士研究員兼任）

『携帯電話の GPS 位置情報を活用した千葉県千葉市における人流解析』（40 分）

現代社会における人間の活動は、私たちが日頃から所持するスマートフォン等からいつ、どこで、何をしたか、デジタルデータとして記録ができるようになった。したがって、前述で挙げたようなデータから大衆の日常生活における速度変化も定量的に捉えることもできるようになった。また、災害時には大衆の行動の傾向はどのように変わるかの示唆を得ることが期待できるようにもなった。例えば、各地域の産業の発展・衰退を緯度経度の情報を含んだ時空間情報として考察ができる電話帳データがある。また、最近では携帯電話の GPS 位置情報から、人の位置(緯度経度)だけでなく、移動速度と移動方向を知ることができるようになった。また、近年は大衆の移動速度に着眼した研究が登場しはじめている。経済活動の関係を大衆の移動速度から解釈する研究では Luis らや Bettencourt らの研究がある。彼らは都市の人口と歩行速度の関係に注目し、経済における生産性の一部として歩行速度をとらえ、歩行速度が早ければ早い程その地域の経済活性度は高いと論じた。また、Korsu らは、移動速度の視点から、都市計画について論じた。筆者はこの取り組みに参入している現状として様々な政治施策が行われ都市開発が行われていく中で、地方創生・クールジャパン政策などでコンテンツ産業の過疎地域に対する導入の取り組みなどが目立つ鳥取県における産業動向に関して時空間的な変動を捉えるために、スマートフォンにおける位置情報データの活用を提案し、さらに有効な手法を検討した。特に本論では、千葉市の文化施設について、来場者がどこから来たかどのように出ているかをスマートフォンが位置情報データを活用して解析を行った。また、どのような行政における催しが行われた際に人々は集まるか、また位置情報においてどういった経路で文化施設へ流入し、帰路につくのか様々な行事の形式に応じたケーススタディを得て、2017 年 10 月における千葉市における行政の催しに関して時節のタイミング、千葉市内在住であろう人々と県外の人々の関心の傾向など考察を得た。

石井晃（鳥取大学工学研究科、クロス情報科学研究センター）

『ソーシャルメディア書込の解析で読む人気ドラマ「逃げ恥」人気の分析』（20 分）

社会物理学の理論であるヒット現象の数理モデルを用いて、人気ドラマ「逃げ恥」の解析を行った話を紹介する。この研究はビデオリサーチ社の協力によるもので、裏番組を含めた毎分視聴率の分析とソーシャルメディア上の盛り上がりを定量的に解析し、ドラマの人気のきっかけがどこにあったかを探る。